

市の人口
(1月1日現在)
男女計 24,679人
25,308人
49,987人
14,509世帯



市報

No.383

いしおか

1月号

昭和62年1月15日発行 茨城県石岡市役所 〒315 石岡市大字石岡3165-2



石岡の民家 (27) 川並輝宅 (東大橋)

▶ニューアイヤー座談会の出席者は、左から石塚よし江さん・山形幸子さん・通訳の森田伸さん・メリーベス・レイノルズさん・森田均さんの5名です。



▶ニューアイヤー座談会の出席者は、左から石塚よし江さん・山形幸子さん・通訳の森田伸さん・メリーベス・レイノルズさん・森田均さんの5名です。

▶私は茨城県青年の船で、去年の十月二十三日から十三日間中国の北京・天津・大連を回ってきました。中国は日本に一番近い国で、同じ黄色人種という点ですごく親しみを感じました。

▶私は茨城県婦人の翼で、カナダ・アメリカを訪問しました。カナダでホームステイ(一般的の家庭に宿泊すること)をしたのですが、とても快く接待を受け国際交流というものの必要性を強く感じました。今回、市民記者の立場から「国際交流」を考え、石岡の活性化に少しでも役立てればと思っています。

▶私はロータリークラブで、オーストラリア・アメリカ・カナダ・台湾などたくさん外国人を自宅に受け入れてきました。今日は国際交流の経験談を聞かせて欲しいという市の要望があり、出席させていただきました。ただし英語はしゃべれません(笑)。

▶私はニューヨークで生まれた私は、ニュージャージー州ワイコブにしばらく住んでいて、日本に来る直前までニューヨーク大学でも、留学生の学資援助の仕事をしていました。そこで日本の文部省英語助手のプログラムを知り、日本で働くことが良い経験になると思い、やがて来たのです。母校ベンシルバニア州アレンタウン大学でも、ビジネス・芸術を専攻しました。映画の制作・編集・監督などに大変興味を持っていて、もしできるならその方向で身を立てたいと思います。しかし今、石岡の中学校で英語を教えているので、英語と芸術の先生になりたいとも考えています。

▶私は茨城県青年の船で、去年の十月二十三日から十三日間中国の北京・天津・大連を回ってきました。中国は日本に一番近い国で、同じ黄色人種という点ですごく親しみを感じました。

▶私は茨城県婦人の翼で、カナダ・アメリカを訪問しました。カナダでホームステイ(一般的の家庭に宿泊すること)をしたのですが、とても快く接待を受け国際交流というものの必要性を強く感じました。今回、市民記者の立場から「国際交流」を考え、石岡の活性化に少しでも役立てればと思っています。

▶私はメリーベス・レイノルズで、私は一緒にいたいという気持ちが感じられ、その気持ちが、私を暖かく迎えてくれた原因なのかなと思いました。

明けましておめでとうございます。
昭和六十二年は、国際化の流れが日常生活に及ぶ年といわれています。田高や物流の自由化によって、私たちの市民生活にも思いがけない影響が現われてきています。その影響がどう流れてゆくのか。石岡の確かな未来を見つめるためにも、私たちは海外に対して一層目を見開いていく時期に来ています。今回のニューアイヤー座談会は「国際交流を考える」と題し、新しい時代に私たちが考え、実行していくなければならぬ「国際交流」というテーマを、四名の市民の方に語っていただきました。

明けましておめでとうございます。

昭和六十二年は、国際化の流れが日常生活に及ぶ年といわれています。田高や物

国際交流を考える

ニューアイヤー座談会

■出席者プロフィール

★森田

均(57)東石岡1 会社社長・石岡ロータリークラブ会員

昭和四十七年以来オーストラリア・アメリカなどの来訪者約三百名を自宅に受け入れてきた実績を持つ。関東地区のロータリークラブでは国際交流の第一人者で、国際奉仕活動の指導的立場にある。

★山形

幸子(19)府中5 上野学園短大2年生

出身地はニュージャージー州。アレンタウン大学卒業後、ニューヨーク大学で芸術学を学ぶ。趣味は読書・映画・水泳。「日本に来た

当初は、おじぎで腰が痛くなりました。石岡のお祭りは非常にエキ

サイティング。でも参加することはノーサンキューですね」

★石塚よし江(48)東ノ辻 市民記者・書道教授

一昨年、婦人の国際交流を目的とした「茨城県婦人の翼」でカナダ・アメリカを訪問。現在ではその経験を生かし国際的な視野に立った婦人活動や地域奉仕を続けている。この座談会の進行役です。

★池田 洋子(33) 谷向町

今やまさに国際化時代です。石岡市内でも海外へ留学したり旅行したりする方、あるいは友人が海に向こうにいるといった人がたくさんいると思います。

私は、NTTに勤務している人がたくさんいると思います。

関係で、国際電話について質問をされることがよくあります。

国際電話は、職場・家庭から直接相手にダイヤルして話せることがあります。

「国際ダイヤル通話」と局番なしの0051を

ダイヤルして、

KDDのオペレーターに申し込む場合

ます。

「国際ダイヤル通話」の場合にはKDDにあらかじめ利用登録をしなければなりません。

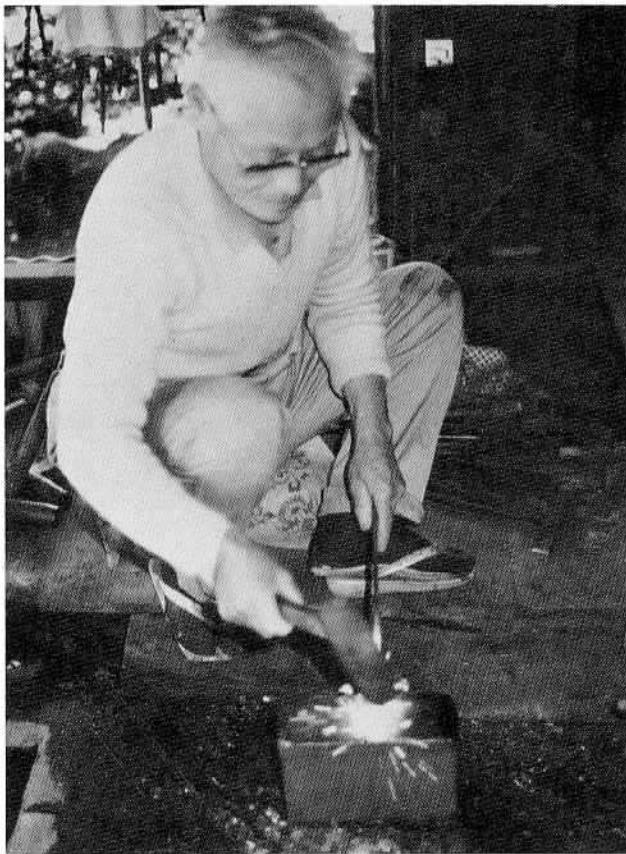
オペレーターに申し込む場合は、0051を回し相手の電話番号・名前を指定します。この場合、本人が電話口に出るまで

できません。

「国際ダイヤル通話」と局番なしの0051を

ダイヤルして、

KDDのオペレーターに申し込む場合</



▲毎朝9時を過ぎると吉崎さんの仕事が始まります。まっ赤になった鉄を片手ハンマーで何度も叩き、鍛えの入った刃物を作っていくます。

年ごろ、この商売をやめて東京の会社に勤めました。しかし、その会社が倒産したため再びこの仕事を始めたのです。

ところが、そのときは同業者が少なくなつていて仕事がかなり舞い込んできました。

十五歳で貝地の駒田という鍛冶屋へ修業に行つてからもう半世紀。今ではこの仕事が体になつて、休むと体の調子が悪くなつてしまふほどです。

作業場には出来あがった様な製品が並べられていました。

吉崎さんの前には金敷、背後にはふいごのスイッチ。右側には大槌と大小の片手ハンマー。そして左側には赤々と燃えるコーケス。ふいごの風が送られます。さらにコーケスは明るさを増しました。火中から紅の鉄を取り出し、吉崎さんは槌を振り上げます。トンテン、トンテン、とリズミカルな槌音が、今日も高浜のまちに響き始めました。

「これぞ石岡一。コレクションや特技など身の回りの気付いたこと、自薦他薦を問いません。どうぞ編集部にお寄せください。」

今日も聞こえる槌の音
高浜の鍛冶吉崎義衛さん

「しばしも休まずつち打（響き）……」と小学唱歌でうたわれた村の鍛冶屋。時代の変遷と共に、そんな光景はとんと目に掛かれなくなっています。

た農具や土物を製作し、今も野鍛冶の伝統を守り続ける吉嶋義衛さん(68)その人です。

「この商売、かつては石岡だけでも十三軒ありました。鍛冶屋というのは農業の変遷にかかわっていて、耕運機やトラクタ

「ホゾで焼き入れし、金敷の良さは、使い心地と堅牢さ。鍛えられた鋼は折れにくくいつまでも長持ちします。

61年度一般会計 補正予算など

市議會第四回定列會

昭和62年
新春すいそう

森田 外国人にとつて、歴史の里といつてもびんとこないのでしょう。それよりも、もつと家の中が見たいんですよ。これは居住の様式がとてつもなく違うのですから。障子一つ見るとびっくりして、障子紙を手に“ああ、これはすばらしい。欲しい”と言いますよ。

石塚 とにかく日本の家庭の中に入つてみたいのですね。多くの外国人は、半年一年と留学しても意外に家庭に呼んでもらえない。一日でも一日でもいいから、気取らないでそれこそ食事はオニギリでもおでんでもいいから、日常の家庭へ入りたいという訳です。

森田 そういう方法から入つていて、ホームステイを受け入れられる方が、十五人で組織を作つたら国際親善とか交流ができる

ささらに国際交流のことを市の職員や幹部の方々が考えてくれれば本物です。もし、このことが具体的に進んでいけば、私たちもサインドからお力添えをしたいという気持ちです。

石塚 どこまで実現できるか分かりませんが、姉妹都市というものを市民全体でもうちょっと考えてみてもいいと思います。

メリーリー もし、石岡市が本当に国際交流を考えていくのなら、私の生まれた町ワイコフと交換留学生などの交流をぜひお手伝いしたいと思います。

今、石岡の中学生を教えていて、総体的に彼等は私と話すことを怖がっています。一年前に教えていたアンディもスポーツを通じてコミュニケーションを図っていましたが、やはり話しかけてくる生

お酒を造っている町と交流を結ぶというのも非常に良いと思いま
す。向こうも興味を持つて、原料はどうだ、価格はどうだ、流通経
路はどうだとなつてきます。お互いが共通していくて見合つたものが
あれば、素直ですばらしい交流になります。

山形 石岡市はどこかと特別な交流を結んでいるのですか？

森田 今のこところはありません。個人的には中国へ兵隊さんで行つ
た人が現地の人と親しいとか、あるいは会社関係だとか……。

問題は、それが華々しく始まつたかと思うと一年ぐらいでバタツ
と終わつてしまふこと。やるんだつたら長続きする方向でないと意
味がありません。

石塚 姉妹都市の提携を結んでいる“まち”は、県内にもたくさん
あります。が、驚いたことに豊里町とか美野里町でもやつてているんで
す。決して都市化されたところばかりではありません。

メリーさんは、石岡で歴史的な場所を見ましたか？

メリー：ウム。自云直ぐ町を離つたから、まだ見ていませんが、寺こあり

A black and white photograph of Yosie Ishizuka. She is shown from the chest up, wearing a dark, ribbed cardigan over a light-colored collared shirt. Her hair is dark and curly. She is looking slightly downwards and to her right with a gentle smile. The background is a plain, light-colored wall.

徒は少なかつたと言つています。引っ込み思案でほとんど話しかけてきません。

何のその岩をも通す桑の弓



講長 由村清次郎

夜遅くお寺を浴びせて家路を急ぐ車の窓に、映る周辺の風景は、幼いころから馴れ親しんだものとは大分異なつてきた。 つい回しながら思い出がある。 今、振り仰げば木立のはじめの中天に美しく光り輝く月の面すすきらと見える黒い影は、

月にはウサギがよく似合う

昭和62年新春ずいそう

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a dark suit, white shirt, and striped tie. He is smiling slightly and looking directly at the camera.

●市長 鈴木堅太郎

日本は賃車
市長

何のその岩をも通す桑の弓

いつもなら一年の計を立てる
元旦だが、今年は何となく重苦
しいものが胸に宿っている。

華麗に花を咲かせた高度経済
成長は、随所に凋落の兆が見ら
れることで、自己防衛の手段で
三日月を挙げて、「我に七難八
苦難の前に挫折しない覚悟を
なかろうか。」
のその岩をも
す桑の弓」と
古い言葉は
彼らの事情を
破した名言。

日本は敗戦



▲歳末の石岡の街を歩く“助け合い托鉢”的雲水たち(曹洞宗仏教法話研究会)

参加したのは市内清涼寺の曾根田隆光さん(40)と長男の昌俊くん(9)ら4名。宣伝カーを先頭にのぼりを持って市内を托鉢しました。中でも昌俊くんの小さな雲水姿は大人気。この托鉢での寄金は、市の社会福祉協議会を通じて伊豆大島への義援金として送られます。

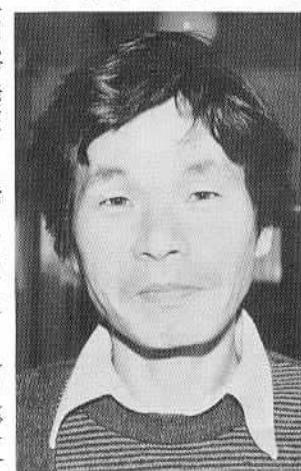


▼国際化時代への奏べ。ラテン音楽ミニ演奏会が開催。

今やインディアンハープの代表的演奏者、ルシア塩満さん(33)が、石岡にやって来て、会場のカフェ・フェリシアで素晴らしいラテン音楽をプレゼント。「地球の裏側の珍らしい音楽に感動しました」と聴衆の一人がため息。



●東小学校 高田隆一先生(33)
取手市立井野小学校を歴任し現在の東小学校に着任して四年目という高田先生は、三人の子持ちという良きお父さん。見るからに情熱家タイプといつたところで、教育論の話題になると熱が入りります。東小の子供たちは、いろいろな面で差があり過ぎますね！個性を伸ばすのが教育だと思っています。私のクラスでは、生徒全員が一日一回必ず発表する事になっているんです。



話しかけてくれるんです」この言葉に呼応するように「コロッケが十円で売っていた頃の話しかけてくれます」ととても楽しいです」と大喝采。栗山ゆかりちゃん。生徒全員が大きな声で「高田先生の授業は

ほくらの名物先生

(25)

▶白熱／小学生対お年寄りのゲートボール(石川)
このほど、下石川のゲートボール場で明治会老人クラブと下石川子供会の心温まるゲートボール大会が行われました。「子供たちは覚えがいいなア」とお年寄り。一方、子供たちは、「むずかしいけど楽しい。もちろん勝つ自信だってあるよ！」と白熱のゲームを開催。



▲市内から交通事故をなくそうと街頭PR/

豊かな郷土づくりに貢献した団体に贈られる“ばら賞”を市交通安全母の会連絡会(武井純子会長)が受賞しました。連絡会のメンバー30人は毎月1日石岡駅前やカギヤ楽器店前などで道行くドライバー・歩行者に交通事故ゼロ運動を約10年近く続けています。



俳句の部

大谷津

海老沢ふみ

東光台一

塚本

光子

すこしづつ空をひろげる枯銀杏

若宮二

片岡

礼子

白鳥の声を聞くまで沼に佇つ

高浜

須田

たま

またひとつ影絵を吊り冬木立

北府中三

袴田

俊雄

酒飲みぬ忘年会の座が灯る

岩崎

山水

散るものをつもらせ筆もつ神の守

捨てるジャンボの外れ鐵

近い他人と義理人情が

旅の土産を重くする

長島五十路

いづくよりか夜明けを告ぐ鶲の声

なつかしみつつ耳澄ましをり

東光台

内田千代子

とし

義理と言う字を歲暮に包み

恩を寸志で詫び廻る

常山

真砂

運は摑めず冷え込む夜に

捨てるジャンボの外れ鐵

近い他人と義理人情が

旅の土産を重くする

長島五十路

いづくよりか夜明けを告ぐ鶲の声

なつかしみつつ耳澄ましをり

東光台

内田千代子

とし

義理と言葉を歲暮に包み

恩を寸志で詫び廻る

常山

真砂

白鳥の声を聞くまで沼に佇つ

高浜

須田

たま

またひとつ影絵を吊り冬木立

北府中三

袴田

俊雄

酒飲みぬ忘年会の座が灯る

岩崎

山水

散るものをつもらせ筆もつ神の守

捨てるジャンボの外れ鐵

近い他人と義理人情が

旅の土産を重くする

長島五十路

いづくよりか夜明けを告ぐ鶲の声

なつかしみつつ耳澄ましをり

東光台

内田千代子

とし

義理と言葉を歲暮に包み

恩を寸志で詫び廻る

常山

真砂

白鳥の声を聞くまで沼に佇つ

高浜

須田

たま

またひとつ影絵を吊り冬木立

北府中三

袴田

俊雄

酒飲みぬ忘年会の座が灯る

岩崎

山水

散るものをつもらせ筆もつ神の守

捨てるジャンボの外れ鐵

近い他人と義理人情が

旅の土産を重くする

長島五十路

いづくよりか夜明けを告ぐ鶲の声

なつかしみつつ耳澄ましをり

東光台

内田千代子

とし

義理と言葉を歲暮に包み

恩を寸志で詫び廻る

常山

真砂

白鳥の声を聞くまで沼に佇つ

高浜

須田

たま

またひとつ影絵を吊り冬木立

北府中三

袴田

俊雄

酒飲みぬ忘年会の座が灯る

岩崎

山水

散るものをつもらせ筆もつ神の守

捨てるジャンボの外れ鐵

近い他人と義理人情が

旅の土産を重くする

長島五十路

いづくよりか夜明けを告ぐ鶲の声

なつかしみつつ耳澄ましをり

東光台

内田千代子

とし

義理と言葉を歲暮に包み

恩を寸志で詫び廻る

常山

真砂

白鳥の声を聞くまで沼に佇つ

高浜

須田

たま

またひとつ影絵を吊り冬木立

北府中三

袴田

俊雄

酒飲みぬ忘年会の座が灯る

岩崎

山水

散るものをつもらせ筆もつ神の守

捨てるジャンボの外れ鐵

近い他人と義理人情が

旅の土産を重くする

長島五十路

いづくよりか夜明けを告ぐ鶲の声

なつかしみつつ耳澄ましをり

東光台

内田千代子

とし

義理と言葉を歲暮に包み

恩を寸志で詫び廻る

常山

真砂

白鳥の声を聞くまで沼に佇つ

高浜

須田

たま

またひとつ影絵を吊り冬木立

北府中三

袴田

俊雄

酒飲みぬ忘年会の座が灯る

岩崎

山水

散るものをつもらせ筆もつ神の守

捨てるジャンボの外れ鐵

近い他人と義理人情が

旅の土産を重くする

長島五十路

いづくよりか夜明けを告ぐ鶲の声

なつかしみつつ

